

豚丹毒



このような症状がある豚は出荷せず、獣医師の治療を受けましょう。

～豚丹毒とは～

豚丹毒は、豚やイノシシのほか多くの野生動物がかかる病気で、その原因となる豚丹毒菌は、これら動物体内のほか、低温や乾燥に強く、自然界にも広く存在します。また、この菌は**類丹毒**(皮膚の紅斑や腫脹等)と呼ばれる**人獣共通感染症**の原因菌でもあります。

～食肉検査では～

豚丹毒と診断された場合、**とさつ・解体禁止**または**全部廃棄**となります。

原因 感染豚や保菌豚が糞尿中に排泄した**豚丹毒菌**を同居豚が摂取することにより感染します。傷口から感染することもあります。

症状 突然死等により発見される**急性敗血症型**、皮膚に菱形の赤いじん麻疹をつくる**じん麻疹型**(写真1)、慢性化したものでは**関節炎型**や、心臓の内側にイボ状の塊をつくる**心内膜炎型**(写真2)があります。

写真1 じん麻疹型豚丹毒

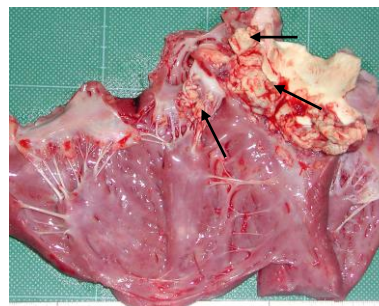


写真2 心臓の内側(心内膜炎型)

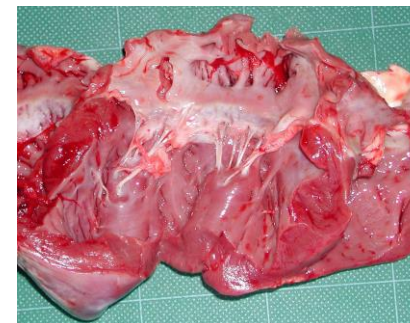


写真3 心臓の内側(正常な豚)

予防・対策 最近、ワクチン接種率が低下し、豚丹毒の発生増加が心配されます。ワクチン接種を徹底して発生を予防しましょう。ワクチンには生ワクチンと不活化ワクチンがあります。例えば30～50日齢に接種し、不活化ワクチンの場合には4週間後にもう1回接種します。繁殖豚は以後6か月ごとに接種します。

リーフレットの内容に関するお問い合わせは下記までご連絡ください。

北海道東藻琴食肉衛生検査所 TEL 0152-66-2001 FAX 0152-66-3576

E-Mail: abashiriho.higashi1@pref.hokkaido.lg.jp

(迷惑メール防止のため「@」を全角にしています。メールを送る際は、半角に置き換えてください)